

今回は、与那城で行われているミチンジャキウガミを紹介します。ミチンジャキウガミは、旧暦8月、子どもの健康を祈願する行事で、今年は10月14日（土）、午後2時から、自治会長を中心に行われました。

供えるもの



- ①～③では、
a.平線香2本
b.酒
c.まんじゅうを供えます。



- ④では、a.～c.のほか、
果物が供えられ、全員
で祈願が行われました。



- さらに、④では年内に
ミーングワ（新生児）
の生れた家は、湯のみ
に赤飯を盛ったウブク

を供え、拝みます。

また、高校に入学した子どものための
祈願も別に行われました。

ミチンジャキウガミでは、参加者から
ウサカティ（費用の分担金）を徴収し
ます。高校入学の子どものいる家庭と、
ミーングワの生れた家からは、ちょっ
と高めのウサカティを徴収するそう
です。

ちなみに、今年はミーングワ7名、
高校入学生2名、参加者は47名（ミチ
ンジャキには22名）との報告があり
ました。

拝むところ

- ①屋号・クミシ（米須）

ムートウヤーと呼ばれる与那城の旧家。屋敷の中には、ヒヌカン（火の神）と神棚があり、神棚には6つの香炉が安置されています。そこには、ニーツチュ（与那城の草分けの人）の位牌や、観音が祀られ、今婦仁（グスク）へのウトウーシ（遥拝）の香炉もあるといひます。

- ②トウン（殿）とヒヌカン（与那城火の神）

18世紀の資料『琉球国由来記』には、謝名越之殿、与那城火神と記されています。このほか、同じ敷地内にあるユナグスクウフスーヌアジシー（与那城大主の墓）と、竜宮神を拝みます。敷地内からは、中央公民館近くにあるジャンンキー（謝名越嶽）と呼ばれるウタキをウトウーシ（タンカーユエーともいっている）します。

- ③ジトウーヒヌカン（地頭火神）

小さな祠に、三つの石が安置されています。

- ④ミチンジャキ（三津武嶽）

18世紀の資料『球陽外巻・遺老説伝』には、三津嶽と記され、琉球王国時代の最高神女・^{きこえおおきみ}聞得大君の墓であると伝えられています。現在では、子どもを見まもる神として祀られています。

むかし、与那城の集落は、ミチンジャキちかくのユナグシクタマター（地名）にあったという伝承があります。

ミチンジャキを自治会（字）で拝むのは与那城だけですが、以前は与那原町や中城村、町内各地域から個人で参拝する人が多かったといひます。我謝では、子供が生れると、3日目にその祖母等がミチンジャキで健康を祈願し、内間でも、子供の体が弱いときには、そこを拝んだといわれています。



ミチンジャキウガミの地図

与那城同様、棚原自治会（字）にも、子どもの健康を祈る行事があります。旧暦12月20日、ヌンドウンチに祀られている棚原の守り神・ミルクガナシーに、子どもの誕生を報告して健康を祈願するミルクガナシーヌウマリトウイタティが行われています。

また、沖縄各地には、子どもに関する年中行事として、旧暦5月4日のユッカヌヒー（子どもの節句。おもちゃを買ってもらったりした）や、旧暦12月のムーチー（健康祈願として、子どもの年の数だけもちを飾る）などがあります。

子どもの成長を願うのは、古から続く人々の営みのひとつなのでしょね。